

平成29年度第1回氷見市行政改革推進市民懇話会会議録

- 1 開催期日 平成29年8月7日（月）
- 2 開催場所 市役所A棟2階全員協議会室
- 3 会議時間 午後5時～午後6時45分
- 4 出席委員 伊藤宣良、禅野葵、永田徳一（高島達代理）、寺下利宏、堂端誠作、中野善宏（松原勝久代理）、村江省三、屋敷夕貴、猶明孝信、米田良憲、田中英雄、釣賀節子、本川和枝、山口新輔、小伏脇健郎、圓山留美 計16名
- 5 欠席委員 森本太郎、岩崎章夫、糸秋男、濱谷英俊
- 6 市出席者 林正之（市長）、前辻秋男（副市長）、山本晶（教育長）、藤澤一興（市長政策・都市経営戦略部長）、高橋正明（総務部長）、山口優（まちづくり推進部長）、草山利彦（市民部長）、表良広（建設農林水産部長）、荻野直樹（防災・危機管理監）、荒井市郎（教育次長）、川崎保広（消防長）、出戸勝教（企画政策課長）、川淵宏朗（総務課長）、京田武彦（財務課長）ほか
- 7 傍聴者 0名
- 8 案件
 - (1) 配布資料の説明
 - (2) 質疑応答、意見交換
- <協議資料>
 - 新たな行政改革プランの策定について
 - 氷見市行政品質改革プラン（進捗状況）
- 9 発言内容 別紙のとおり

発 言 内 容	
総務課長	<p>ただ今から、平成29年度第1回氷見市行政改革推進市民懇話会を開催いたします。委員の皆様には、ご多用のところ、ご出席を賜り誠にありがとうございます。私は、本日、司会を務めます総務課の川淵です。よろしくお願ひいたします。</p> <p>はじめに、市長より挨拶を申し上げます。</p>
林市長	<p>平成29年度第一回行政改革推進市民懇話会を開催しましたところ、委員の皆様には、本日は、何かとご多用のところ、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>また、平成30年度からの新たな行財政改革プランを策定するに当たり、委員の就任をお願いいたしましたところ、快くお引き受けいただき、本当にありがとうございます。</p> <p>日頃から皆様方におかれましては、市政の推進、とりわけ行政改革、あるいはいろんな分野に多大なるご尽力、ご努力を賜り、心より御礼申しあげます。</p> <p>さて、本市では、平成15年度に策定いたしました「行財政健全化緊急プログラム」を皮切りに、これまで本市民懇話会からのご意見を頂戴しながら、行財政改革のためのプランを数度にわたり実行してきたところであります。</p> <p>こうした依然として厳しい状態にある本市の行財政環境の中にも関わらず、市民の皆様の多大なるご理解とご協力をいただきながら、これまでの間、堅実な行財政運営を行ってくることができたのではないかと考えております。</p> <p>本日は、現行の「氷見市行政品質改革プラン」が今年度でその計画期間が終了することから、平成30年度からの新たな行財政改革プランの策定について、検討をお願いするものであります。</p> <p>新たな計画におきましても、氷見市に、そして氷見市民の皆様に新たな活力をもたらし、明るい未来を展望することができる計画としたいと思っております。</p> <p>そのためにも、この計画がより良くなるよう、各分野を代表しておられます皆様には、日々、実感されておられる、例えば少子高齢化、人口減少など氷見の様々な今日的課題、そして将来の展望につきまして、忌憚のないご意見を頂戴いたしますとともに、お力添えを賜りたく存ずるものでございます。</p> <p>結びに、本日ご出席の皆様方のご健勝とご多幸を祈念申しあげ、私の挨</p>

拶といいたします。

どうか、本日はよろしくお願ひ申し上げます。

総務課長

本題の協議事項に入ります前に、委員のみなさまのご紹介、会長の選出について、事務局のほうで進行をさせていただきます。

どうか、よろしくお願ひいたします。

最初に、委員のみなさまをご紹介いたします。

氷見市農業協同組合代表理事組合長の伊藤様です。

氷見青年会議所専務理事の禪野様です。

氷見市社会福祉協議会会长 高嶋様の代理、永田様です。

氷見商工会議所会頭の寺下様です。

氷見市老人クラブ連合会会长の堂端様です。

氷見市観光協会代表理事会長 松原様の代理、中野様です。

氷見市小中学校 PTA 連合会会长の村江様です。

氷見市連合婦人会会长、富山県男女共同参画推進員氷見連絡会代表の屋敷様です。

氷見市自治振興委員連合会会长の猶明様です。

氷見市金融協会会长の米田様です。

氷見市特別職報酬等審議会委員、税理士の田中様です。

氷見市情報公開・個人情報保護審査会委員、社会保険労務士の釣賀様です。

平成28年度氷見市女性議會議長の本川様です。

氷見市有線テレビジョン放送番組審議会会长の山口様です。

公募委員の小伏脇様です。

同じく、公募委員の圓山様です。

なお、森本委員、岩崎委員、糸委員、濱谷委員につきましては、本日欠席のご連絡をいただいております。

次に、会長の選出ですが、本懇話会におきましては、これまで自治振興委員連合会の会長にお願いしております。

みなさま、いかがでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございました。

それでは、猶明様には、会長席にお着きいただき、議事進行をお願いしたいと思います。

猶明様、よろしくお願ひいたします。

会長

ただ今紹介を受けました猶明です。

どうかよろしくお願ひいたします。

今ほど事務局から説明がありましたとおり、本懇話会、歴代の氷見市自治振興委員連合会の会長ということで、今回、私が連合会の会長であることから、図らずも懇話会の会長職を務めさせていただきます。先程、氷見市長からお話がありましたが、これまで厳しい財政状況の中、本懇話会で健全な行財政運営をされてきたとのことであります。

本懇話会では市民が満足する改革プランを皆さんと創り上げたいと思います。是非、ご協力のほど、よろしくお願ひいたします。

進行にあたりまして何かと不慣れな点もございますけど、皆さまのご協力を得ながら進めたいと思っています。

それでは、最初に、副会長であります、会長の指名ということになっておりますので、連合婦人会会長の屋敷さんにお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

(異議なし)

屋敷さん、よろしくお願ひします。

それでは、さっそく協議案件に入りたいと思いますが、本日の議事録につきましては、これまでの会議と同じく、発言の要点について委員名を伏せて公表したいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。議事録の作成及び公表に関する事務処理につきましては、事務局の方でよろしくお願ひいたします。

それでは、協議資料を一括して、事務局に説明をお願いいたします。

総務課長

(「新たな行政改革プランの策定について」の説明)

総務課課長補佐

(「氷見市行政品質改革プラン（進捗状況）」の説明)

(天坂)

会長

今ほど事務局から、はじめにこれまでの行財政改革の取組、2番目に現行プランの状況、3番目に新たな行政改革プラン策定の基本的考え方、策定スケジュールの案につきましてご説明がございました。ただいまの説明につきまして、皆さんからご意見をいただきたいと思います。

忌憚のないご意見をお願いいたします。

委員

財政基盤の件でありますけど、持続可能ということでいい方向に行って るんだろうなと、概ね達成見込みとも記載されていますし、これはこれでいいだろうなと思いますけれども、行政課題という部分を解決するという

ことになりますと、ただ数字がよくなつたでは、市民にとって本当にいいんだろうか。もちろん財政の健全性が大前提なんですけれどもそれだけでいいのかなと、もっと有効な使い方を逆にしなければいけないのではないかと感じます。民間で言えばプラスになればなるほど良いわけですけど行政が健全な部分は残さなければいけないんですが、プラスになれば良いのかというとそうではないと思います。行政の方もわかっているとは思いますが、数字だけで良かった良かったというのは、ちょっと疑問が残ってしまいます。

公民連携という言葉は良いように聞こえるのですが民間委託という部分と連携という部分で行くと、連携という部分を行政側から見るとリスク分散も含めて非常に良いんですが、民間から見るとリスクというのが非常に重しにかかるのでちょっと気をつけないといけない。こういうふうにやれば民間も成り立つというのが、はっきり見えれば連携として成り立つと思います。ただ、行政側からみて、この部分は民間さん頼みますよというやり方では、成り立つか成り立たないのかというのが非常に気になる部分でありますので言葉だけの問題じゃなくて実際どのようにするかっていうのは色々あるんでしょうけど、公民連携というのは逆に民間側からすると非常に危機感があるので、その辺を考慮いただいて、実際に民間が何をするのかを、それで成り立つかっていうのを明確にできるようにしていただければ良いのかと思います。

会長 それでは今ほどの意見に対して事務局から回答をお願いします。

総務部長 総務部長の高橋です。よろしくお願ひします。

今ほどの財政基盤、確かに財政の健全化ということでは守るべきラインはしっかりと守りつつ、ただし、税という形で皆さまから資源をお預かりしているわけでありますので、市民にとって、最も有効な幸せを実現できる資源配分をしていかなければならない。借金なども将来的にずっと使って行ける施設についてはそういう財源の調達の仕方もひとつはあるべきだと思っております。借金が減れば逆に仕事をやってこなかつたという一つの視点になる場合もあります。ただし、これから的人口減少ということはしっかりと見据えて行く必要があると思っておりますので、持っている資源を限りなく有効にいかにうまく成果を引き出して行くかということの視点が大切かと思っております。

公民連携につきましては、行政が持っている部分を押しつけるのではなくて民間の方が是非何か新規の分野に参入していただけるような、民間の方で成長していただいて新たに雇用が生まれるような連携をしていきた

いと思っております。

会長 質問等はありませんか。

委員 氷見市は予算規模で百数十億円（一般会計の一般財源ベース）、職員数400人ですが、私の経験からすると組織というのは膨張圧力があったり、働いてきます。そういった中で3年、5年のスパンの中で収支を均衡すると言うか、タガをかけることは大変良いことだと思っています。そういった意味で今後、新たに4年、そしてまた10年という財政収支見通しが立つかどうか、我々は10年という見通しは立てられない、そういった所をしっかりとやって行かれるということですから、組織としてタガをかけて議会と良く相談されてやっていくことは良い事だと思います。

新文化施設の委員にもなっていますが、その委員会では、4つの跡地について、将来、人口減少になる、財政も厳しいというなかでどうだって話もありましたが、そういった事も含めて、4年間、3年間の財政も含めてスケジュールをたてられるんでしょうか。

また、同一労働同一賃金の話は、簡単に言えば人件費が上がるということでしょうか。

総務部長 今回の計画期間につきましては、総合計画、後期基本計画が平成30年度から33年度といたしておりますので、それに合わせた計画とさせていただきたいと思っています。この4年間に総合計画の方でどういった施策を優先的に盛り込んで行くかという事が出てくるわけですが、いかに効率よく実行できるか、そのためにこの行革の計画において資源配分を適切にやっていきたいという思いがあります。一定の歯止め、上限をみていく必要があります。

4つの空地については、将来必要なハードやソフトを含めていくつか課題になっているものがありますので、それらをどの年度で、どんなタイミングでどんな財源を用いてやるかというのをシミュレーションをさせていただいて、この4年間のうちにどのようにやっていくかというのも次の資料で提案させていただきながら、それをこんなふうに組み合わせて4年間をしっかりと財政の健全性を図りつつ市政が目指す方向へ持っていくかという事を合わせてご検討いただければと思います。

なかなか10年のスパンで財政を見通すのは大変難しいです。

一定の方向性について立てさせていただきたいと思っています。

同一労働同一賃金につきましては、氷見市におきましても臨時職員の割合が高まってきておりますが、ただし国の方では平成32年度から会計年

度任用職員という制度が盛り込まれてまいりまして職務内容を限定的にしなければならない。逆に正規職員がやっている仕事をそういった職員がやってはいけないという厳しい縛りも出てまいります。

人件費が上がる方向になるのは間違いないと思いますが、そこもバランス、どんなふうにマンパワーの配分ができるかという事も多様な雇用形態を取り入れながらしっかりと調整を図っていく必要があると認識しております。

林市長

少し補足をさせていただくと、新しい行政改革プランでは、市民満足向上という中で4つの跡地の活用のプランを作るわけですが、財政的には何も作らなければ財政上は楽なわけですが、はたして放っておくのがいいのか、投資をして市民の満足のために使うのが良いのかということも含めて検討しなければならないということあります。

氷見市全体の年間予算額は200億円程度でありまして、そのうち市税等の自主財源は4分の1の50億円であります。資料2ページの財政収支見通しにもありますように、計画では平成27年度は3億50百万円の赤字の見込みのところ、5億80百万円の黒字、平成28年度も赤字の見込みが実績では黒字となっています。市の財政は国からの地方交付税に大きく左右されることから当初の見込みというのは厳しく見込んでおります。

行政改革、財政改革という中でどうしても行政は時代に応じて仕事のニーズが増えてきます。例えば、最近ですと、山間部のいのしし対策ですか少子化対策ですかがありますが、今までの仕事はやらなくていいのかといいますと行政の仕事は新たな課題で仕事が膨らんでいくという傾向にあります。こうした中で、目標の職員数の縛りをつけておく中で、ある部分はこれまで臨時職員に頼らざるをえないというところがあったわけですが、今後は同一労働同一賃金にしても給与費が上がっていくことが想定されるわけであります。よく言われるようにスクラップ&ビルトということも行政改革の中では当然やっていかなければならないわけで、民間でできることは民間に委託する、あるいは公民連携といったことであります、市民満足度ということと行財政改革というのはなかなか相反する部分がありますけど、両方をやっていかなければならないわけでございまして、皆様方にお知恵を拝借したいと思っているわけでございます。よろしくお願ひいたします。

委員

業務の民間委託の中で、「氷見市行政品質改革プラン（進捗状況）」の10ページに29年度予定に業務委託の推進について検討とありますが平成27年度に学校給食センターの民間委託開始のあと市ではどんな部

門について委託を考えておられますか。

総務部長

具体的にどこをというのままだ申し上げられませんが、民間のなかでは行政がやっていることを包括的に請け負ってもいいですよという事業者も出てきている状況でありますし、そういった所から色々な提案もいただいております。この部分を民間で引き受けたらどうであるとか、行政でなければできないこと、民間の方々の方が効率性を発揮できるということもありますので、そういうことを中心にこれからは進めて行く必要があるのかなと思っております。

委員

28年度の職員数394名でアルバイトの方のウエイトが上がっているとの事ですが、今現在アルバイトの方は何名位おられますか。

総務課課長補佐
(森)

現在、臨時職員・嘱託職員合わせて130名程度おります。

委員

皆さんの仕事の割合または効率を上げるために現在の394名の正規職員から正規職員がかなり増えていかなければ成り立つていかないということでしょうか。

総務部長

ニーズはどんどん変化していくので、新たに仕事を増やすだけではなく減らすことも考えて行かなければならぬと思っております。そういった中で市直営で臨時職員を雇っていくのか、民間に委託をしていくのも選択肢の一つだと思いますので、そういう事も組み合わせをうまくやって行く必要があると考えています。

会長

ご質問はないでしょうか。

委員

「氷見市行政品質行革プラン（進捗状況）」の1ページの収入で、例えば市税が増えているとの事ですが、固定資産税を中心に増えているのかなと思っているんですが、この他にも個人の市民税であるとか法人市民税があるので、それらが同じように増えているのか、減っているのかも気になる所で、そういうものも資料にあれば良いと思います。

民間と連携していくのは良い事だと思いますが、ただし、民間委託する時に元々は行政がやるべき事を民間に委託するわけですから、民間のノウハウを活用することはとても良い事だと思うのですが、それだけではなく民間に行くと利益の獲得に重きを置いてしまうということもあるので、相当性のある事業、公益性のある事業ということで、経営の状況について報

告してもらうことや、場合によっては公表してもらうということを事前に明確にしておく必要があるのではないかと思います。

例えば多くの場合、法人がすることになると思いますが、財務諸表を公開することが重要になっている。ただし外国と違って日本の場合は簡単な公開にとどまり、情報の公開が不足している。

介護、福祉の事業は民営化が進んでいるが、経営の効率化だけで、公共性、公開性が契約の当初にあったと思うが、現実にはその部分が弱いのではないかと、個人的見解ではあります。

公共事業については、公共性、公開性が担保されるよう、仕組みに民間と行政と協力して、住みよいまちづくり、地域を創ってもらえるよう智恵を絞ってもらったら良い。

総務部長

市税について一括りにして提示しており、分かりにくい点もありますので、それぞれの税目ごとの資料もこれからは提供させていただきたいと思います。やはり人口が減ってくるということになりますと、人によって課税される部分につきましてはこれからも減る傾向にあると思いますし、タバコ税につきましても喫煙人口が減っておりますので、税収そのものについては増える要素がそんなにないのかなと思います。

民間との連携において公益性を発揮していただきなければならないような分野で契約の中で行政のかわりを担って頂くという部分になりますと、一定の指標的なものを設けてきちんと確保し、契約するということが必要になってくると思いますし、そういった事をきちんと市民の皆さんに公表することは大事な事だと思います。

会長

ご意見をいただきたいと思います。
いかがですか。

委員

職員数について、ただ漠然と人数が資料に記載されているのですが、年代別の構成比率も、これから先、大事になってくるのではないかと思います。公務員はリストラがないのでただ漠然と職員を入れると人口が減って税収が減る中において職員数のバランスが悪くなったりということがあるので職員数は10年ではなく20年30年見通した計画を立てることができますし、また20年先には人口が1万人減ると言われておりますので、そういった所も見通した構成プランというのをしっかりと作った上で正規雇用にしていただければと思います。

「氷見市行政品質行革プラン（進捗状況）」の16ページの法定外目的税の研究というところで、別途新しい税金を作るという話だと思います

が、地方創生の中では人口減少問題で若い年代の人口減少が問題になっておりまして、その比率を上げる事が地方創生のポイントになっておりますが、むやみやたらに税収を上げるとせっかく、先日市長が第2子まで保育料の無料化を拡大したのに、片方で優遇しながら片方で税金をとると結局キャラになって効果が弱くなってしまう。

もしこういった事を検討されるのであつたら、全ての市民を対象とするのではなく、例えば年配の方々から少しいただくなど、年代別に政策を考えていただければ良いのかなと。年配の方々には預金がたくさんあるという話もありますので。地方創生と絡めるのであれば、税収を上げるっていうのは、新たな課税っていうのは望ましくないのではないかと思います。もう一つの理由は、デフレの時に増税すると景気が悪くなるとも言われておりますので、その辺りも踏まえて検討していただければと思います。

総務部長

おっしゃる通り公務員は基本的には終身雇用となりますので、今採用した人はおそらく30年後も職員でありますので、そういった事も想定しつつ、年代構成など考えながら、すでに氷見市の職員構成は平均年齢が高く逆ピラミッドになっております。そういったことからも職員の採用にあつては適正なバランス、男女比や年齢比率が寸胴型になるような構成になるように目指していきたいと思っておりますし、将来の人口がどの程度になるのかを見据えた採用をしていきたいと思っています。

法定外目的税につきましては、地域にこういうサービスを展開したいから目的を達成するためにそれによって受益を受ける方に課税させていただとか、目的税でありますので使い道が決まっているところであります。税で成り立つためにそれ相当の課税客体でありますとか規模が必要になりますし、何よりも市民の方々のご理解が大切だと思っております。なかなか新たな税も設けるというのは大変難しいですが、これから氷見市を考えると、例えばいのしし対策とか多額な費用がかかるので、そういった所に目的税を作るというのも選択肢の一つだと思います。柔軟な発想で仕組みとして成り立つのであれば、そういった事も考えて行く必要があるのかなと一つの思いつきではありますが、思います。

委員

職員の構成で寸胴という事は同じ比率でと言う事だと思いますが、人口が減っても同じ数だけ確保していたらまずいと思いますので、人口の比率に合わせたもので作っていただければ良いのかなと思います。

税の話で、おそらくクラウドファンディングの話ではないかとも感じたのですが、全国でいくつもクラウドファンディングが成功しておりますけど、私の友人も先日、モンゴルに日本の相撲場を寄贈しようと全国から三

百数十万円をクラウドファンディングで集めまして、今、工事が完成しまして、白鵬閣と一緒に完成式を行ったという事も実際ありますので、そういった制度の活用を推し進めていただければよりよいものになって行くのではないかと思います

会長 いかがでしょうか。

委員 「氷見市行政品質行革プラン（進捗状況）」の15、16ページの人口減少対策による歳入減幅の縮減ということで、色々な方法があると思うますが、いわゆる縮小部分と税収を増やして行くような視点があると思うですが、縮減はマイナスイメージがあるので、どうやって税収を増やすかとか観光客を増やすかなどプラスに考えられるような方向性をできるだけ組み入れていっていただければ市民のいろんな思いが明るくなるんじゃないかなと思います。

委員 直接関係ないのですが、近所に小学校1年の自閉症のお子さんがいます。支援学校に通つておられるそうなんですが、そのお母さんは地元の小学校に行けると思っていたと言つておられました。先生を増やすなどして途中からでも地元の小学校に通えるようにしていただきたいのですが。

教育次長 教育次長の荒井です。
個別の事案になりますので、改めてご相談させてください。

会長 いかがでしょうか。

委員 「氷見市行政品質行革プラン（進捗状況）」の説明の中で検討中とあるが、役所言葉で検討とはやらないという意味ですが、それについて色濃く使い分けしておられるので何か方法があるのかなと感じておりました。

基本になるのは、どうゆう方向で市が進むのかについて、この計画をやるんであって、決して削れさえすれば良いというものではないということには賛成であって、市政が変わってどうゆう方向に行くのか市民が注目している。そうゆうのがこの中に反映されてくるんだろうなと思っています。

「氷見市行政品質行革プラン（進捗状況）」で、アンケートを実施するとなっているが、回収率はどうなっているか。

最後の方の滞納金額はどうなっているか。

指定管理者制度でお考えになっていることはありますか。

総務課課長補佐
(天坂)

アンケート回収率55%は目標値です。実態としては3割から4割です。例えばアンケートの周知期間を長くするなど工夫するなどして目標を達成したいと思っておりますが厳しい数字です。

総務部長

市税における滞納額のことかと思いますが、平成28年度におきましては、現年収納率98.5%となっており、残りの1%程度は基本的に滞納繰越ということで次の年に引き続きの収納に努めます。時には差し押さえなど強制徴収をさせていただくこともありますが、金額といたしましては28年度の滞納繰越額は約2億円です。これは一般の市税です。国民健康保険税としても1億2千万という滞納金額が生じている状況であります。

指定管理者制度の導入について考えていることについてですが、漁業文化交流センターが市の直営ということでやらせていただいておりますが、昨年度においては、こういった施設を指定管理者制度でやっていただけないかと2度公募をかけたところであります。かつて海浜植物園等についても指定管理者制度の導入を検討したところであります。これからいろいろな公共施設においても行政に代わって指定管理を担って頂けるような可能性を追求していく必要があると考えています。

会長

他、意見等ありませんか。

委員

行政改革を行って職員数が減っているのに人件費が増えている内訳を教えてください。

職員数は消防職を除いた職員数ということでしたが、これは正規の職員数ということでおろしいでしょうか？

総務課課長補佐
(天坂)

「新たな行政改革プランの策定について」の2ページの話かと思いますが、歳出10億93百万の増のうち人件費の62百万の増については、29年度見込みが影響を与えていると思います。29年度の数値につきましては予算ベースのものを上げさせて頂いておりますので、その後の増減等がまだ反映されていないものでございます。ご指摘いただいたとおり人数が減っているのにここは減っていないのは予算ベースである29年度数値が影響していると考えます。

職員数の件ですが「氷見市行政品質行革プラン（進捗状況）」の3ページをご覧ください。H29.4.1の職員数ですが394名となっております。先程の説明の中で消防職を除くと言っておりましたが、消防職につきまし

ては目標 52名に対して現在 55名で目標を上回っております。これにつきましては救急体制の強化、県の防災ヘリへの派遣という特殊事情がありまして強化をしております。ただ他の職務につきましては見込みの中で予定しているものでございます。

人数は正規の職員です。

委員 実際、市の仕事をしているのはその他に臨時、嘱託の方がいらっしゃるということですね。そういう方達がいないと業務が成り立たないという理解でよろしいでしょうか。

総務課課長補佐(天坂) 現状として、先程、森から説明のありましたように、130名の臨時、嘱託職員がおりますので、そういったマンパワーも必要となっています。

委員 正規の職員の数が減ったということで把握していくはずいのではないかと思います。平成32年度から新しい法律が出てくるとおっしゃってますよね。そうしますと臨時、嘱託の方を市の都合のいいように使うことができにくくなると考えざるをえなくなります。そうすると当然人件費の部分を今まで思っていた形で削減していくのは、これからは考えにくいのではないかと思うんですがどうでしょうか。

総務部長 ご指摘のとおりです。この財政収支見通しの表の中では、非正規の職員の賃金については物件費という形で数字の中に入っているわけですが、これからは徐々に正規職員の人事費が高くなるという方向に動かざるをえないのかなと思っております。そういった意味で経費は上昇圧力が強まってくると思います。

委員 その部分を丁寧に説明していかないと、理解してもらうのは難しいのではないかと思います。

総務部長 今回は正規職員の数だけまずは整理し、お示ししましたが、非正規職員を含めてトータルでどうなるかというものを、できれば含めて比較などの数字に織りませながら、どこに適正なラインというものがあるのか、そういったものも資料として提供できればと思います。

会長 折角の機会ですので、ご意見等はありますか。

委員 平成27年から29年までの3年間の収支見通しについて、最初は7億

円位の赤字予定だったが実績は3億78百万円のプラスだった。普通の会社だと大変な事ですよね。万が一これがプラスにならなかつたらどうするのか聞きたい。

人口減少の話が出ているがIターン、Uターン、Jターンとか色々な施策があります。施策は真っ正面から見るばかりではなく、たまには横から斜めから後ろから見るというのも必要だと思う。氷見出身の60歳から65歳位の定年を迎える県外におられる方々に市長の名前で氷見に帰ってくれというご案内を差し上げたらどうか。家庭があつたり色々な事情があるので、中々移動できないが100人出せば1人か2人も戻って来れば非常に大きな力になる。市のためにも。個人情報に問題があるが町内会長や自治振興委員、市職員の方から近所の情報を得て案内をし、帰って来てもらう。もしダメだったとしても後日、ふるさと納税のお願いの案内を出すといった努力が必要だと思います。

九転十起の世話をさせていただいているが、民間委託という話が出ましたが、市や県だけでやってもダメなことがいっぱいあると思います。川崎や横浜であつたり都会での仕込みが総合的にうまくいけば何とかそれを結びつけたいと努力しているんですけど、そういうことも含めて視点を色々考えて横から斜めから考えていただいてやった方がいいと思います。

総務部長

計画の段階で本来であれば収支均衡の数字を出すべきところですが、この計画を作った段階では27年度は3億5千万円の赤字、28年度では3億8千4百万円の赤字という計画でスタートしております。どうしてこんな赤字を発生させて収支が成り立つかということですが、自治体におきましては、こういった年度間の財源不足を調整するための基金をもっております。先程の財政調整基金の残高というのがあったかと思いますが、その他にも借金を減らすための減債基金を持ち合わせております。財政調整基金が現在28億円余り、減債基金が14億円余りということで、この間、黒字になったおかげでそういった基金にさらに積み増しできたことになります。

先程の説明にもありました、新たな新文化施設を作る予定にしておりますので、そういう将来に備えた財源ということでも教育文化振興基金に3億5千万を積み立てることができたという、そういう年度間の基金を利用させていただいて収支を均衡させているわけでございますが、できればそういう事に頼らずとも収支均衡を図れる、税で入ってきた分で基本的に賄う、それで足りない分を普通交付税でっていうのが本来であれば原則と考えています。

市長政策・都
市経営戦略部
長

氷見出身の方にお手紙を出して氷見へ帰って来てもらえばどうかという事ですが、例えば東京でありますと東京氷見会、近畿でありますと氷見同郷会とかそういう結構大きな組織を作つておられまして、毎年その総会には市長が、市長が都合悪い場合には副市長が参加しております、交流を図つているものでございます。その場で帰つていらっしゃいと言うのはどうかということではございますが、氷見市との結び付き、氷見はやっぱり良いですよということを呼びかけながら郷愁をくすぐるといいますか戻りたいなというようなことを思つて頂けるようにもつていくのも一つの方法だと思います。

お手紙までといいますと個人情報等の問題もありますので再度調査させていただきたいと思います。

会長

最後に質問をお願いします。

委員

これまでの行財政改革の取組ということで、この15年様々な取組をしてきたんだなとつくづく分かります。

人口減少という事を考えたときに、色々な手を尽くしても中々この問題を解決するっていうことが難しいのかなと思っています。

職員数について色々委員のご質問がありましたが、これだけ取り組んでいるということは、大変忙しんだろうなと感じました。進捗状況を見ておりまして、結構、△（検討中）があるなど。なかなか、施行までは行かないのかなと感じました。

これからは、先程、市長がおっしゃったように市民の幸福満足と行革とは相反すると私もそう思います。私を含め市民においしい、甘い事だけを言つてはいる時代ではなくなってきたのかなと、私たち一人一人がそういう事も考えながらいかなければならぬと思っています。

行政の満足度ってことも、上を見るときりがないと思ってます。そういう事も踏まえて、先程から皆さん夢のないプランはダメだって、私もそう思います。夢は与えるプランだけど、ただただ夢だけ、おいしい事だけっていうのはどうなのかなと。そこら辺のことを私たち一人一人が考えて行かなくてはいけないことなんではないかなと思います。

そういうことを考えながら委員の方々といろんな意見を言い合いながら進めていきたいと思います。

会長

ありがとうございました。

これで本日の案件は全て終了させていただきたいと思います。

最後に閉会に当たり、市長から一言ごあいさつをいただきます。

林市長

本日はお忙しい中、お集まりいただき、また貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。先程も申し上げましたとおり、市民の皆様のいろんなお声を聞きますと、早く新文化施設を創って欲しい、或いは、公式試合が開催できる野球場を創って欲しい、そうしたいろいろな市民の満足に応えるにはお金がついて回ります。4つの跡地問題もあります。また、公立保育園も老朽化をしています。そうした中で市長であれば、どれだけでもお金が印刷できれば、あれもこれもやりたいと言うのが本心ですけども、そうかと言って、将来に大きな借金を残す訳にもいかない。人口減少ではありますが、少しでも市の税収を持ってくる。日本は人口減ではありますが、例えば2050年は国的人口推計では24%減と言われています。氷見市では40数%減と言われていますが、世界に目を向けてみると2050年には32%増でありますと、世界各地から日本に、氷見に観光に来ていただくことも考える必要があるかと思います。今日の委員会は、行政改革ということで、ともすれば湿りがちな、市長としてはあまり出たくない会議ではありますが、皆さんのご意見を聞きながら、市民の満足度を出しながら、市の財政に過大な負担をかけない、針の穴を通すようなことをやつていかなければならぬのが行政だと思っています。皆様の英知を結集し、氷見が元気になるように、かと言って、過大に財布を開かないように、両方を兼ね備えた計画を作っていくみたいと思います。皆様の英知をお借りしたいと思っています。今ともよろしくお願ひします。

本日は、ありがとうございました。

会長

ありがとうございました。

委員の皆様には長時間にわたり熱心にご議論いただきありがとうございました。